

複数の講義担当者に対する質問・コメントと回答

講義内容について

質問	生から死への道程の中で、どの点で“人間”という側面が色濃く出て、どの点で“ヒト”という側面が色濃くでていくのかということについて、考えをお聞きしたいです。
鈴木回答	動物行動学の成果などを見ると、人間とヒトとは表裏一体なのではないでしょうか？道程の中の点では表せないのでは？
田村回答	これ以降の質問は、おそらくわたしに宛てられたものではないと思います。もし私が答えるとしたら、(A)に同じ、です。 (A)：この質問に対しては、回答できません。その理由は、わたしの講義できる内容を越えた質問だからです。私は生物学者であり、その立場から生と死のお話をするのが私の講義内容です。その内容はお話しした通りで、それ以上のものでもそれ以下のものでもありません。その是非も含め生物学的内容については回答しますが、人間の死について回答するすべを私は持っていません（もちろん、自分自身という個人的な死についても）。ただ、回答にはなりません、みなさん自身が、生物学的な生と死の捉え方（のひとつ）を理解した上で、人間社会における生と死をあらためて考えてもらえればと思います。
質問	受精し、細胞が1つできた時点で、生きてるとみなすという考え方がとても興味深く、もうそのように定義すると中絶はどの段階でも「殺人」になるのだなと思いました。中絶という考え方、仕組みがあること自体に反対ですが、みなさんはどうお考えなのでしょうか。
質問	田村先生のお話では「生物＝細胞でできているもの」ということでしたが、だとしたら、1つの細胞であった時点で生きている物だと思ってしまうので、人工妊娠中絶は完全に殺人だと思いますが、どうですか。
質問	なんで一般に死は忌避されるのですか？その一方で、なんで「死のポルノグラフィ化」とよべるべき現象がおきているのだと考えますか？また死の人称性についてどう思いますか？
質問	「死」の定義の一つに、「心臓の停止」があります。「生」をその逆と考えると、心臓が拍動を始めた時、となりますが、胚は5～6週目に拍動を始めるにも関わらず、中絶できるのは22週未満です。このように、「死」とは違い、「生」を心臓の拍動とは関連付けないのはなぜですか。
鈴木回答	生も死も、それぞれのコンテキストに基づいて定義が複数あるからです。
質問	時々私達は、何もせず怠惰な生活をしている人を「死んでいる」と言います。先生方に、どのような人間が比喩的に「生きており」「死んでいる」のか意見をうかがいたいです。
清水回答	生きている－死んでいるという差異化は、身体の死をベースにした比喩だろうと思われます。活動しているか、活動していないかの違いの表現であることが推定されますが、どうですか。「あんな奴はもう死んだものと思う」というような絶交の表現がありますが、こちらは交流の断絶という人の死をベースにしています。

講義内容以外について

質問	あなたは家族、もしくは知人を亡くしたことはあるか？そして、もし亡くしたことがあるのなら、その人を何をもって亡くなったと定義したのか？どうやって認識したのか？
鈴木回答	「あり」三徴候、実際は呼吸停止と心停止。瞳孔散大は確認しなかったが、前二者で充分了解できた。
質問	医学が急速に発達する今日、死者蘇生などにも目が向けられており、真剣に研究を進めている研究者もこの世界にいることは事実です。そこで、もし死者蘇生が現実のものとなったとき、死と生への考え方、死生観はどのようになるとお考えでしょうか。それぞれの観点からお話し頂けたらと思います。
鈴木回答	生物である以上、人間に「死」がおこることは正常な事であると思うので、死者を蘇生する意味が理解できない。
質問	宗教を信仰している人に、「宗教の考えられる矛盾」を認識させ、脱宗教させることは可能か？
鈴木回答	カルト宗教からの脱会事例は数多くあると思います。

### 講義担当者以外への質問・コメント

回答 済	A	タイトル「死と生」について「生と死」という言い方のように生を前に出すか死を前に出すかで何か違いはあるのでしょうか。野家先生に
コメント		高木先生：今回の講義の総括としてとても腑に落ちました。

### 指名のない質問・コメント

コメント	死んだ後、別世界に移行するというある種の希望をもたせるのは、宗教が、生きている人、つまり死を知らない人に対して、証明の必要がないものを都合よくあみだした結果ではないのか。
鈴木回答	あなたのおっしゃる通りかもしれませんが、死後世界がないという証明は誰もしていません。その意味で私はわからないことに対して安易な判断をすることは差し控えています。われわれ宗教学者はそういった問題よりも、あの世があると信じている人々が居る、と言う事実をスタートに、そうしたことがなされる意味について考えています。直接的には死後世界の有無は本質的な問題ではないのです。
清水回答	「安楽死」をどう定義するかで、回答は変わります。定義を枚挙し、それぞれについて評価するのは本回答では難しい。もう 30 分の講義が必要です。
質問	クローン人間ができたとしても、生い立ちが違えばクローン元と全く同じ人間（人格）になることはないといった内容の文を見たことがあります。この意見はとても納得できるものなのですが、近年の技術の発達で、人工知能的なものに自らの情報（知識や生い立ち）を全て教え込んで自らが死してなお自らの分身が生き続けるようにするという計画があるというのを見ました。クローン人間を、たとえ遺伝子情報が同じでも人格の異なるなら同一の人間と見なさないとするなら、生物としての特徴は有さないが同じ人格、同じ情報を有するモノがあるならそれはその人が生き続けているということにはならないのでしょうか。
質問	「水槽の脳」だとか、「世界 5 分前仮説」だとか、「哲学的ゾンビ」だとか、この世界の不確定さを感じさせるような観念が多くあります。私は自分の生について考えるとき、こうしたことに思い至ることがしばしばあり、そのたびに虚しさを感じてしまいます。生きることに現実感を与えるのはいったい何なのでしょう？
質問	安楽死についてどのようにお考えですか？（賛成ですか、反対ですか。また、それはなぜでしょうか）
質問	結局、私が言いたいのは、「死と生」が文化によって決まるのも、プロセスだったりするのも、いろいろ分かったんですが、つまるところ、「死と生」とはなんなんですか？
質問	みなさんはおそらく私たちよりはいろんな人の死も経験したと思うし、死に近いと思いますが、それはその事案はみなさんになにかをもたらしめていますか？
質問	仏教的死生観（特に輪廻転生）についてその背景にある思想も含めて教えて下さい。
コメント	「死と生を科学する」というタイトルが示唆するように、やはり社会科学・自然科学的な見地から『死と生』を論じることは本質的な困難が伴うということが分かり有意義だった。このようなアプローチでは問題の表面を撫でることしかできないと改めて知ることができてよかった。
コメント	法や倫理の視点からが必要だと思ったし、聞きたい。
質問	（質問）「魂」は存在するのか？「魂」とは何なのか？（宗教的な概念ではなく、科学的な観点から）
コメント	様々な側面から生と死について知れて良かった。